

フィリピン スタディーツアー

実施日程：2015年3月2日（月）～9日（月）

教員：井田先生、金沢先生

学生：柴、平尾、福岡、梶原、菊池



Philippine Airlines

1日目

私たちは3月の2日から9日まで看護学部の学生3名と発達教育学部の学生2名と先生方でフィリピンへ研修に行きました。

1日目はホテルに到着後、KSEMカフェへ行きオリエンテーションを行いました。

ホテルはミダスホテルというとてもきれいなホテルでした。

ホテルに到着してすぐにウェルカムドリンクとして飲み物をいただきました。

ホテルにはピアノも置いてありとてもオシャレでした。

KSEMカフェとはKanlungan sa ER-Maの略でKPACと同じ責任者が経営しているカフェです。



・ホテル到着

・KSEMカフェ

このカフェラテアートはカンルンガンで育ち自立したカフェのスタッフが作ったものです。



2日目

・トレスカレッジ にて交流

2日目はトレスカレッジで小学校の授業見学と学生交流を行いました。
トレスカレッジは看護学部、教育学部、工学部があるということもあり交流をしていました。
この写真は昼ごはんを一緒に食べ、お土産を渡したときの写真です。
日本のお菓子や文房具はとても人気でした。



左の集合写真はみんなフィリピンピースというピースをしている写真です。
右の写真は先生方も交えてみんなで撮った集合写真です。



3日目

・マンガハン
放水路見学

・JICAフィリピン
訪問

3日目はマンガハン放水路見学とJICAフィリピンを訪問しました。マンガハン放水路見学は船で行いました。マンガハン放水路は日本の援助のもと整備されています。そのためこのような看板が立てられています。フィリピンの河川は整備されているところがあれば、まだまだ整備も不十分で支援が必要などころが多く見られました。普段は船の上から見学なんてめったにできませんが今回は特別に見学することができました。JICAフィリピンでは日本のODAの事業紹介やフィリピンの学校制度の説明をしていただきました。

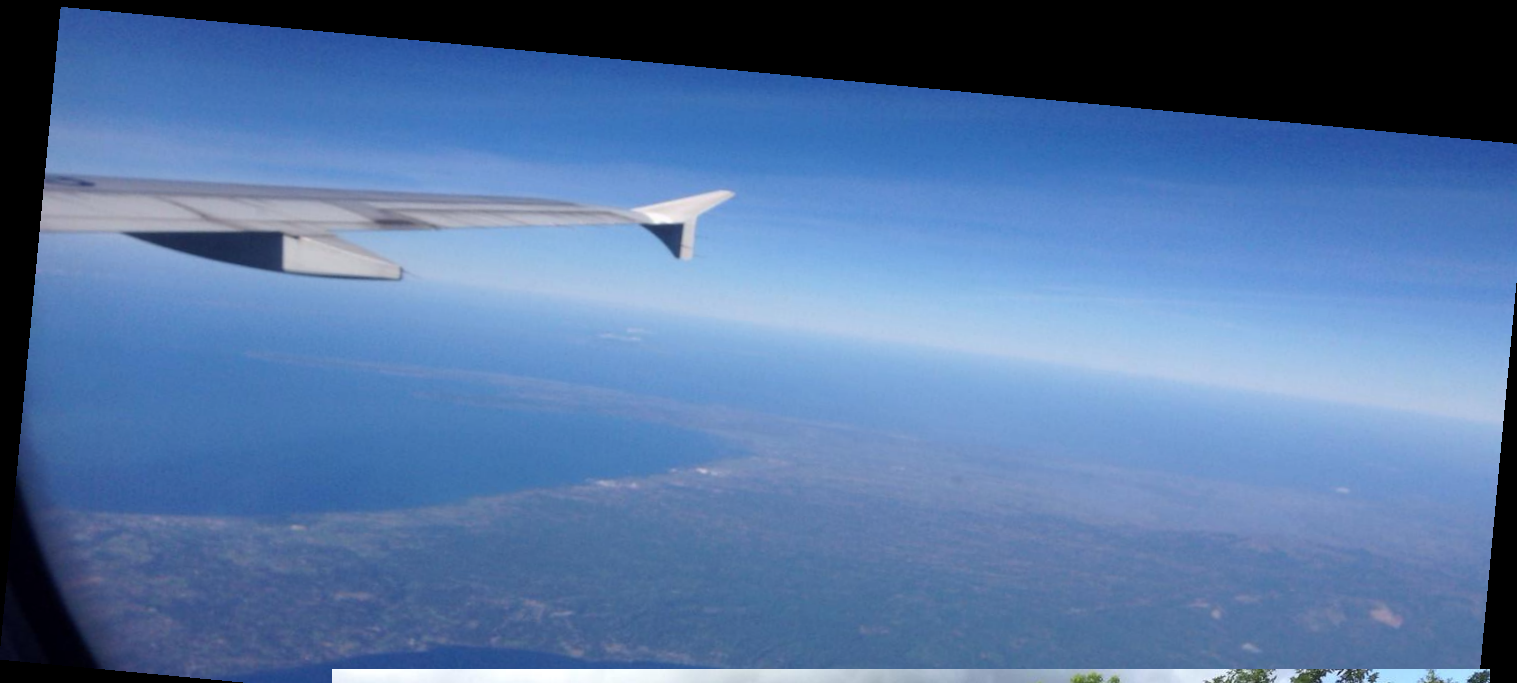


4日目

・イロイロ市

・特別支援学校 にて交流

4日目はマニラから飛行機に乗りイロイロ市へと行きました。イロイロ市では特別支援学校へ行き児童たちと交流をしました。この特別支援学校は日本とは違い、障害を持っている児童を特別に支援するだけでなく、特に成績のいい児童や優秀な児童も特別に支援していました。この写真は子どもたちとの交流で作ったかさ袋ロケットを飛ばしているときの写真です。



5日目

・KPACにて交流



5日目はトンド地区の貧困地区(元ごみ山のスラム)で活躍するSRDセンターと地域住民が運営するCPCDセンターを訪問しました。

これらはともに就学前教育施設です。

KPACとはKonkokyo Peace Activity Centerの略であり、フィリピン、タイ、カンボジアの教育支援活動に取り組む国際協力NGOです。KPACでは就学前の子どもたちと交流をしました。

6日目

・カンルンガンにて 交流



6日目はカンルンガンで子どもたちと交流をしました。
カンルンガンとはマニラ圏内のストリートチルドレンを保護する現地組織です。
マニラ市に30人収容のドロップインセンター、郊外に60人収容の共同生活センターを運営しています。
カンルンガンではみんなでカレーを作り、食事後は子どもたちと交流をしました。

7日目



・マカティー観光

7日目はフィリピンの都市部であるマカティーへ観光に行きました。マカティーでは貧富の差を改めて実感しました。フィリピンは発展しているところはとても発展していてリゾート地みたいでした。このほかにも今回の研修ではマニラで一番大きい病院やフェベリア病院、教会なども見学しました。今回の研修では日本にいるときと経験することのできない貴重な経験をすることができました。現地の人とのかかわりはとても充実していてこれからも一期一会を大切にしていかなければならないなと思いました。



フィリピンの教育について研修してきたことを発表します。
この写真はトレース大学付属小学校の算数の授業風景です。

フィリピン研修 教育編

3114010
梶原 健太

トレース大学付属小学校

フィリピンの公教育について



この写真はフィリピンの公立小学校の写真です。
授業を見学したところ、座学中心の授業が多く、実験室やコンピュータ室などの設備の整っていないという点が目立ちました。
しかし、フィリピンの教育は日本よりも、英語が充実している印象がありました。
それは、この後お話しする幼稚園から英語を用いた教育が行われていることからわかります。
しかし、修学率及び修了率はフィリピンの公教育では

小学校	就学率95%	修了率74%
中等教育	就学率64%	修了率48%

小学校の修学率が95%に対して中等教育が修了率48%と半数にも満たしていません。
理由として「ついていけない」、「親の理解」、「通えない」等があります。
2016年には修了率を88%にしたい。そうです。

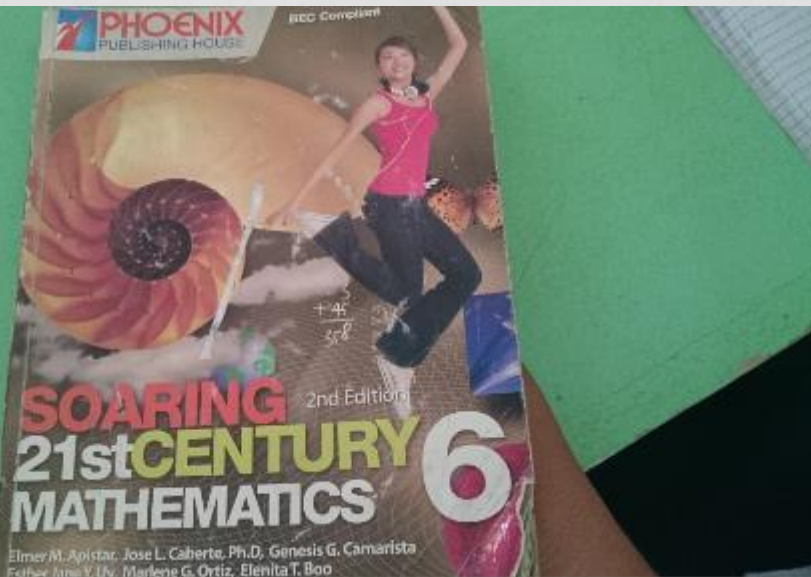


日本より第二言語（英語）が充実していました。
フィリピンでは第一言語タガログ語で、第二言語英語です。
大学生に第一言語と第二言語どちらが話しやすいか聞いたところ。
「英語の方が話していて楽、世界共通語だから。」とっていました。

トレース大学附属小学校



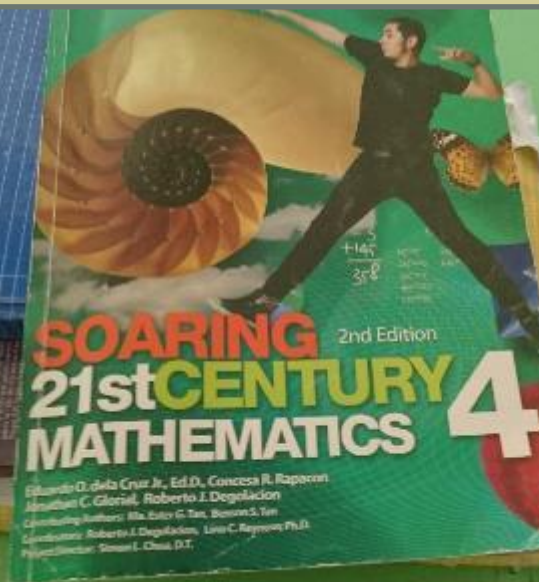
これは、トレース大学附属小学校の授業風景の写真です。
私立学校です。
設備も大学と共有するなど充実していました。
白板の右上にはEnglish onlyの張り紙がありました。



Standards For Oral Reading



1. Stand straight.
2. Hold the book with the left hand.
3. Read aloud with expression.
4. Stop at periods and pause at commas.
5. Group the words correctly.
6. Pronounce the words clearly.
7. Glance at the audience once in a while.

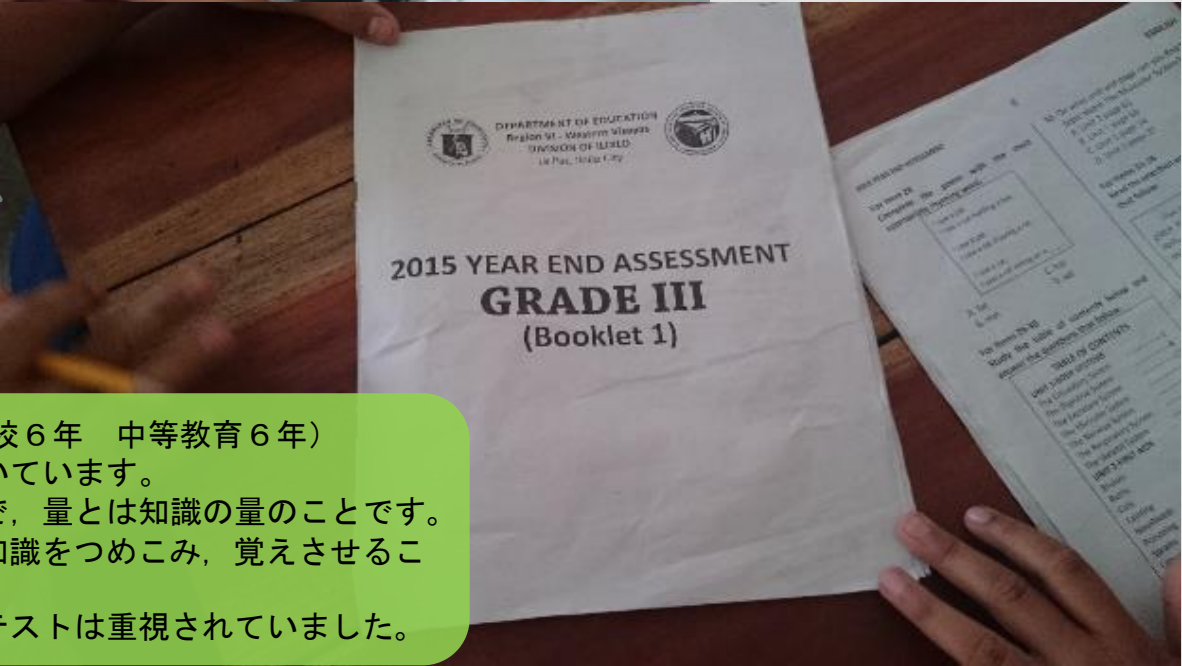


左側二枚の写真は、フィリピンの算数の教科書です。すべて中身は英語で書かれています。右の写真は発表時の姿勢について書かれています。日本でよく言われる、音読をするときの注意事項が書かれています。まっすぐに立つ、本を左手で持つ、熱意を持って大きな声で読む、句点では留まり、読点では少し休む。言葉のまとまりを正しく読む、はっきりと発音する、さらに聞いている人の方を見回しましょう。について書いてありました。



三年生学年末
テスト

全部英語！！



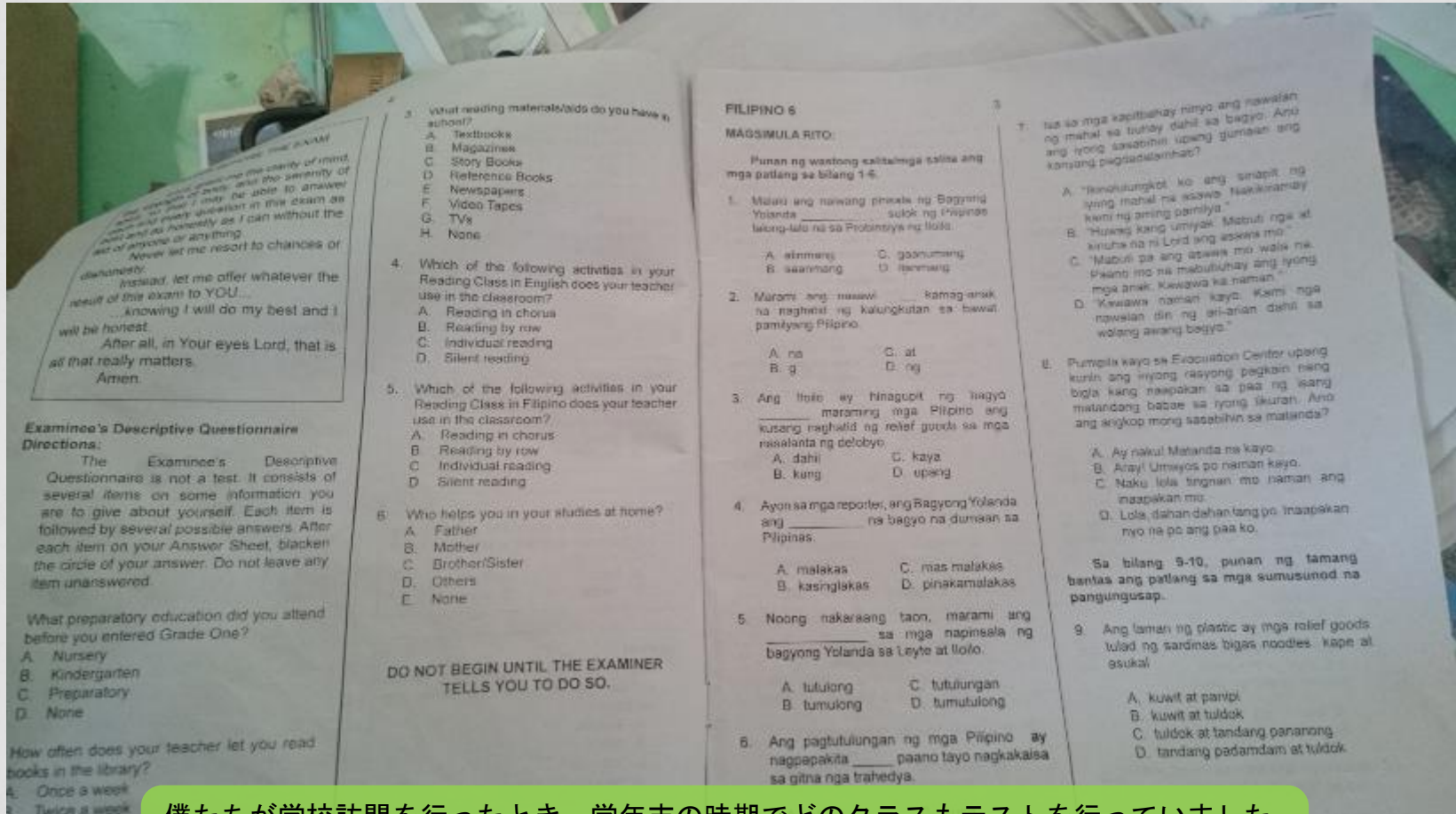
2012～ K-12 基礎教育12年へ延長（小学校6年 中等教育6年）
公立学校の授業では、質より量に重きをおいています。
質とは日本の教育のように考えさせることで、量とは知識の量のことです。
授業時間は1日4時間の半日授業のため、知識をつめこみ、覚えさせることを多くしなければなりません。
知識の定着を確認するためにどの学年でもテストは重視されていました。

記憶のためのツール



これは、僕たちが小学生のときにやった百マス計算と同じものです。
ノートにこの紙を重ねて問題を解いていくものでした。
同じ問題を何度も解くため覚えてしまっている生徒もいました。

学年テスト（英語）



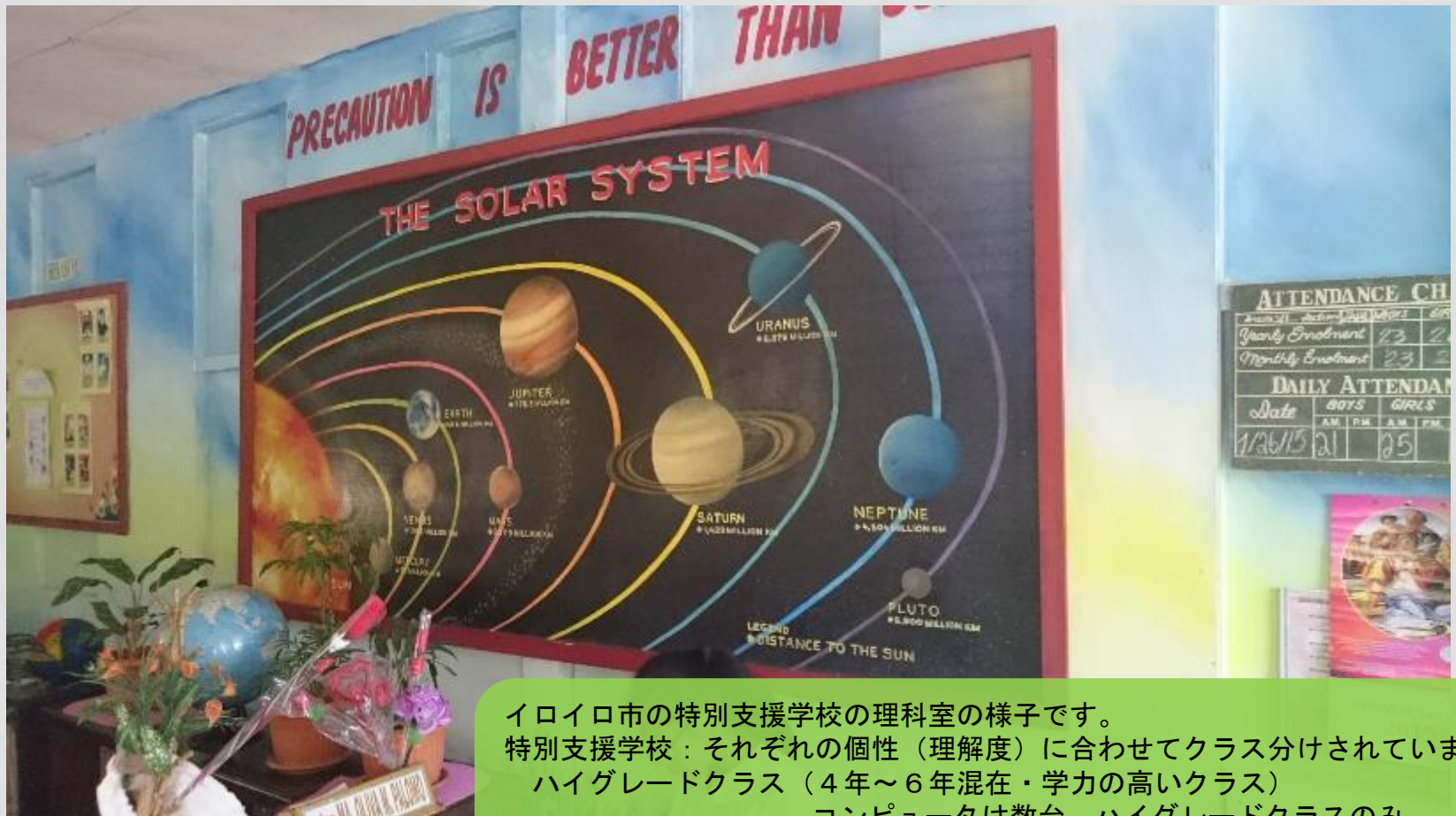
僕たちが学校訪問を行ったとき、学年末の時期でどのクラスもテストを行っていました。小学校からテストでクラス分けをしています。テスト問題の量は多く、すべて英語です。

イロイロ市マアシン特別支援学校



イロイロ市のマキリナ特別支援学校の外観です。
運動場には、芝生が広がっていました。

理科室



イロイロ市の特別支援学校の理科室の様子です。
特別支援学校：それぞれの個性（理解度）に合わせてクラス分けされています。
ハイグレードクラス（4年～6年混在・学力の高いクラス）
コンピュータは数台。ハイグレードクラスのみ
一般クラス（1クラス60人で普通のクラス）
支援学級（視覚障害，発達障害，性同一性障害などの人がいます）

図工室



イロイロ市の図工室です。

イロイロ市ではバナナの葉の細工品が有名でここでは、伝統的な作り方を学ぶことができます。

ありがとうございました

